

駆除されたシカを資源へと利活用

活動の経緯

小諸市では、許可捕獲体制を猟友会主導から行政主導へと移行した結果、ニホンジカの捕獲数は6倍近くに増加し、農作物の被害額は激減した。しかし、捕獲数の増加に伴い、捕獲報償費と処理経費が激増したことから、予算不足により鳥獣対策を継続することが困難になることが予見された。そこで、有償ごみとして扱われていた駆除個体を商品化することで処分費を抑え、持続可能な鳥獣対策を構築するための活動を開始した。

活動の概要

捕獲したニホンジカを解体処理し、シビエペットフードへと加工し販売している。



小諸市野生鳥獣商品化施設外観



小諸ブランド鹿肉ペットフード

活動の成果、主な実績等

○小諸市では、駆除されたニホンジカの大半を有償で焼却処分してきたが、事業を開始した平成 28 年度以降、市内で捕獲された個体の 90%以上を、ペットフード(地域資源)として利活用している。

○小諸市と同様に駆除個体の処分に頭を悩ませていた複数の近隣自治体も、本施設にニホンジカを運び込むようになり、現在では年間 1,500 頭以上のニホンジカを解体し販売するまでに規模が拡大している。

○当該施設の鹿肉を用いた研究が複数の大学で進められ、シビエ品質の向上が図られている。また、これまでに解体施設には、100 を超える視察が訪れると共に、多くの学生が野生動物との共存について学ぶために訪れている。